



災害復興チャリティイベント

帯広・十勝に
花は咲く

事業実施報告書

平成29年3月24日

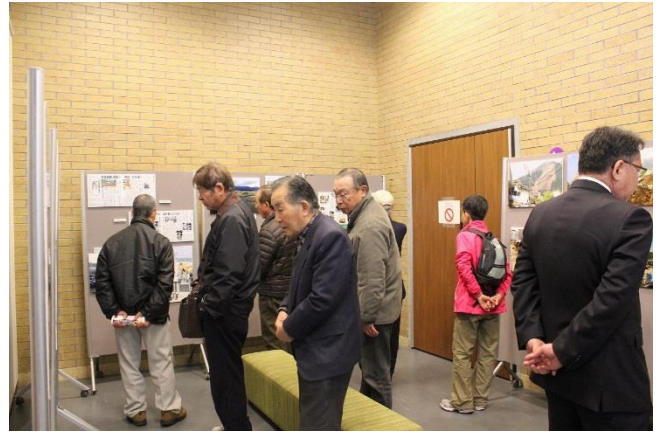
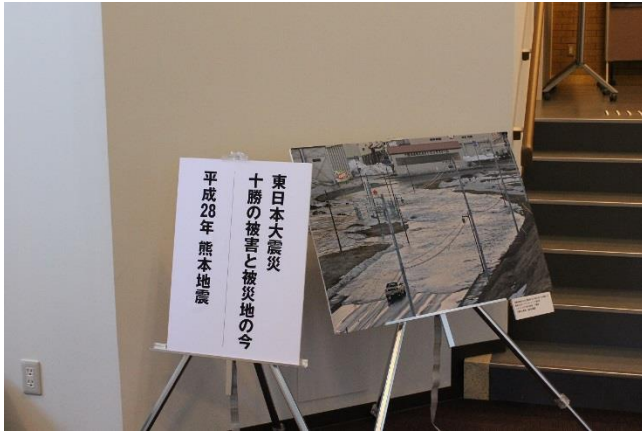
1. 事業報告

- 開催日時 平成29年3月20日(月)
開場 9:30 開演 10:00 終了 12:30
- 会場 国立大学法人帯広畜産大学 講堂
- 開催目的 帯広畜産大学が実施してきた東日本大震災の復興支援事業の取り組みや、被災地の復興の軌跡を報告するとともに、コンサートを通じて近年全国的に発生している自然災害被災地に対する支援の気持ちを再確認する。
- 主催 国立大学法人帯広畜産大学
- 共催 十勝町村会 帯広市 帯広市教育委員会 十勝毎日新聞社
一般財団法人帯広市文化スポーツ振興財団 有限会社プラン八十二
- 実施協力 モトコ&源ボーカル4 帯広畜産大学アカペラサークルram'a tone
帯広畜産大学ジャズ研究会 陸上自衛隊第5旅団
- 後援 NHK帯広放送局 北海道新聞帯広支社
株式会社帯広シティーケーブル FM WING
- 開催内容 第1部 帯広市民大学講座
 - ・帯広畜産大学災害復興支援プロジェクトの足跡
帯広畜産大学地域環境学研究部門 教授 辻 修
 - ・「成長社会」から「成熟社会」へ
福島県飯舘村長 菅野 典雄氏第2部 チャリティコンサート
 - ・陸上自衛隊第5音楽隊
 - ・帯広畜産大学アカペラサークル ram'a tone
 - ・帯広畜産大学ジャズ研究会
 - ・モトコ&源ボーカル4
- 入場者数 約230名(スタッフ含む)
- 募金額 122,520円
※十勝毎日新聞社を通じ、東日本大震災、熊本地震の復興支援を目的に日本赤十字へ寄付を予定
- 備考 本学が実施してきた「東日本大震災復興支援プロジェクト」及び「帯広十勝に花は咲く」については、一定の目的を達したものとして、今年度の開催をもって区切りとする。

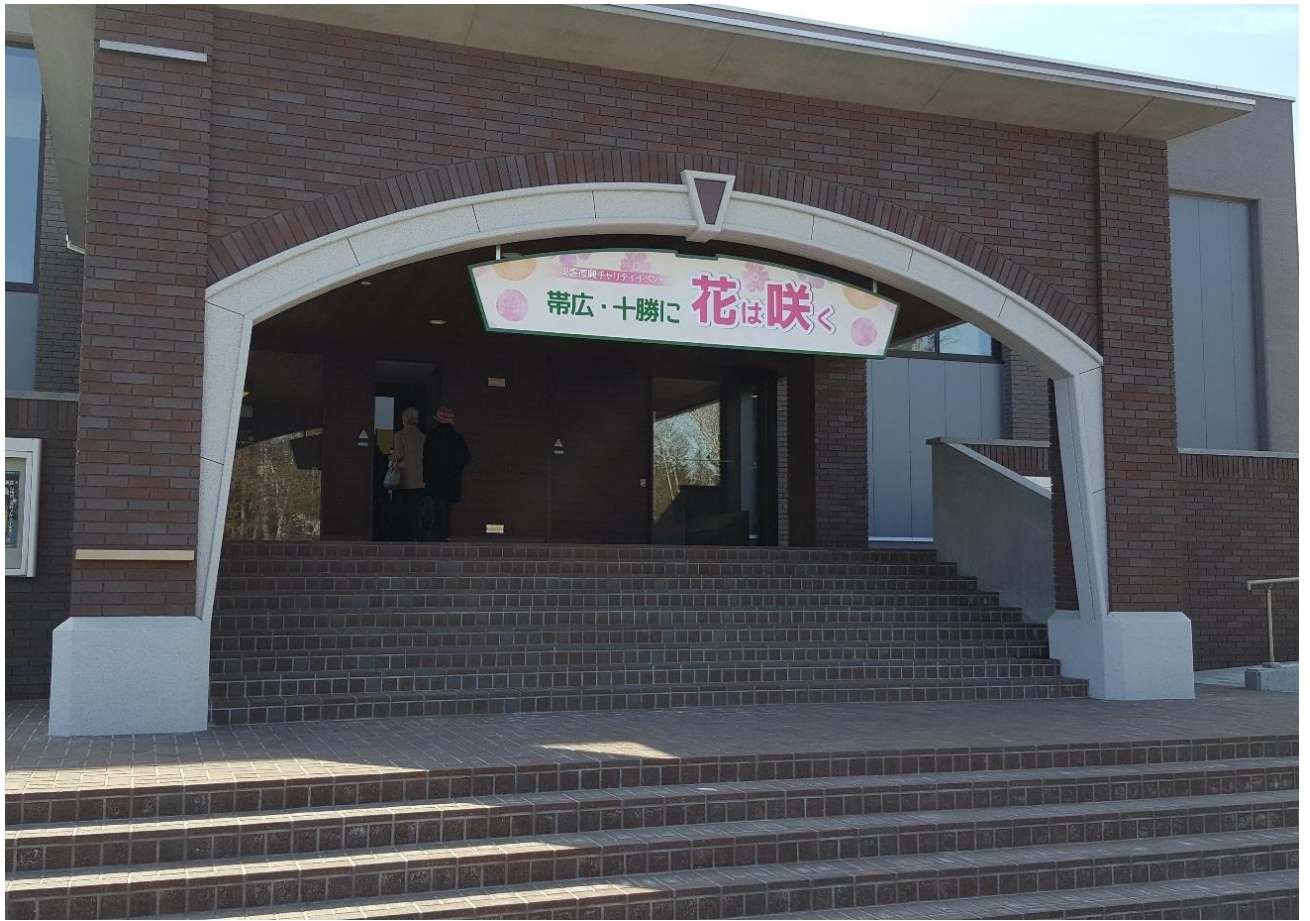
3. プログラム

時 間	プ ロ グ ラ ム
9 : 3 0	開 場
1 0 : 0 0	開 演
	1. 主催者挨拶 国立大学法人帯広畜産大学長 奥田 潔
	2. 帯広市民大学講座 (1) 帯広畜産大学東日本災害復興支援プロジェクトの足跡 国立大学法人帯広畜産大学 地域環境学研究部門 教授 辻 修 (2) 「成長社会」から「成熟社会」へ 福島県飯舘村村長 菅野 典雄氏
	3. チャリティイベント (1) 陸上自衛隊第5音楽隊 (2) 帯広畜産大学アカベラサークル ram'a tone (3) 帯広畜産大学ジャズ研究会 (4) モトコ&源ボーカル4
	4. 来場者全員による合唱 『花は咲く』
	5. 閉会挨拶 国立大学法人帯広畜産大学 理事・副学長 井上 昇
1 2 : 3 0	閉 演

4. 記録写真



4. 記録写真



4. 記録写真



5. 報道記録

2017年2月26日 十勝毎日新聞

「花は咲く」支援に区切り 3月20日に最後のコンサート 帯畜大

2017/02/26 10:26

東日本大震災などの復興支援を目的にしたチャリティーイベント「帯広・十勝に花は咲く」が3月20日、帯広畜産大学講堂で開かれる。同大が主催し、2014年から毎年行ってきたコンサートだが、「一定の目的を果たした」（同大）として今回が最後となる。

同コンサートは復興支援の気持ちを持ち続けるために企画された。昨年の参加者が今回は出演者としてステージに立つなど、「気持ちを持ち続けようとのメッセージは届いている」（同大）とし、イベント形式での復興支援に区切りを付ける。今後は研究を通して復興を支援する。

今回は昨年の十勝の台風災害と、熊本地震の復興支援の気持ちも込めて開催する。第1部では、辻修教授が同大の「東日本災害復興支援プロジェクト」の取り組みを紹介。同大卒業生で福島県飯館村の菅野典雄村長が、「『成長社会』から『成熟社会』へ」と題して特別講演する。

第2部のコンサートでは「モトコ&源ボーカル」や同大ジャズ研究会、同大アカペラサークル「ram'atone」、陸上自衛隊第5音楽隊が出演し、多彩な曲を演奏。最後に参加者全員で、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を合唱する。

入場無料。午前10時～午後0時半。事前の申し込みが必要で、締め切りは3月15日。問い合わせは同大研究支援課（0155・49・5776）へ。（池谷智仁）

2017年3月20日 十勝毎日新聞

復興の思い 未来へ帯畜大で230人「花は咲く」

2017/03/20 13:26



さまざまな思いを込め、心をひとつに復興支援ソングを合唱する参加者（20日午後0時半ごろ。新井拓海撮影）

東日本大震災などの復興支援を目的としたチャリティーイベント「帯広・十勝に花は咲く」が20日、帯広畜産大学講堂で開かれた。参加した約230人が、心をひとつに復興支援ソングを合唱した。

同大主催。2014年から毎年行ってきたが、一定の目的を果たしたとして今回で終了する。

今回は東日本大震災の他、昨年の十勝台風災害と熊本地震の復興支援も願い開催。会場には各地の被害や復興の様子を記録した写真が展示され、募金も行われた。

同大の奥田潔学長は「教育や研究で今後も支援を続けていきたい」とあいさつ。第1部では、同大「東日本災害復興支援プロジェクト」の取り組みを辻修教授が紹介し、同大卒業生で福島県飯館村の菅野典雄村長が復興の現状などを講演した。

第2部のコンサートでは「モトコ&源ボーカル4」や同大ジャズ研究会、同大アカペラサークル「ram'atone」、陸上自衛隊第5音楽隊が多彩な曲を演奏。最後に参加者全員で、東日本大震災復興支援ソング「花は咲く」を合唱した。

実行委形式で開催した当初から関わる清原三枝子さんは「復興支援の気持ちは確実につながっている。誰にでも優しくなれるよう、皆の心に花を咲かせる取り組みを今後も続けたい」と話した。（池谷智仁）

OCTVで放送

帯広シティーケーブル（OCTV）は4月8日午後7時から、「帯広・十勝に花は咲く」の模様を放送する。後日の再放送も予定している。

5. 報道記録

2017年3月21日 十勝毎日新聞

「ゼロに向かうスタート」 避難指示解除で飯舘村長 帯畜大で講 で講

2017/03/21 9:37



20日に帯畜産大学（奥田潔学長）で開かれた災害復興チャリティーイベント「帯広・十勝に花は咲く」（同大主催）では、東日本大震災で甚大な被害を受けた福島県飯舘村の菅野典雄村長が講演した。同村の避難指示は31日に一部地域を除き解除されるが、これは元の暮らしを取り戻すためのスタートだと強調した。

帯畜大卒業生の菅野氏は、福島第1原発事故に伴う放射能汚染土を入れた袋は村内に約230万個積まれたままと説明。村の人口約6000人のうち、避難指示解除直後に帰村するのは1割程度にとどまるとの見通しを示した。

「避難指示解除はゴールではなく、スタート。それも、放射能の不安や汚染された土地と長い時間をかけて闘うという、（マイナスから）ゼロに向かうスタートだ」と、他の災害とは異質だと訴えた。

また、放射能について多くの国民が理解していなかったと振り返り、「リスクと向き合い、正しく怖がることを勉強しないといけない」と指摘。原発事故から何を学び、次世代に伝えるかが重要とし、物が豊富で便利な社会を追求するだけでなく、心を大切にすまちづくりも進めていくべきだとした。

辻修教授は、同大の教員や学生が取り組んできた同村での除染研究について報告した。国による一律の基準ではなく、実態に合った除染方法の検討が必要とし、そのための基礎データを提供していると説明。同村を訪れた学生に対しては、「震災の記憶を次世代に広めることを期待したい」と話した。（池谷智仁）